

# 高精度の医療ロボット「ダ・ヴィンチ」導入 猛特訓で春からの運用目指す

総合南東北病院（寺西寧院長）は、このほど手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を導入しました。福島県立医大附属病院などに次いで県内で5番目、県中・県南で初めて。南東北グループでは5年半前に導入した新百合ヶ丘総合病院に次いで2番目です。目下、医師陣がプロジェクトを組みトレーニングを重ねて春以降の運用開始を目指しています。



導入した「ダ・ヴィンチ」、中央奥がサージョンコンソール

画像を見ながら両手両足を使ってアームを遠隔操作して手術します。鉗子の先が自在で可動域が拡大、人のような関節を備えているため腹腔鏡では不可能だった繊細な手の動きを再現できます。保険適用の前立腺がんでは、手術時間が短いという出血量が少なく、術後の疼痛軽減や機能温存の向上、合併症リスクが回避で

## スタッフが無事故、安全を祈願 総合南東北病院で手術室開き

総合南東北病院の平成30年手術室開きは仕事始めの1月4日(木)、今年初朝礼後の午前



玉ぐしを捧げて無事故、安全を誓う寺西院長ら幹部

き、患者さんに優しい低侵襲手術。社会復帰も早いなどのメリットが評価されています。1999年に欧州で始まったロボット手術は、翌年から米国で認可され、2015年には65万件に達しロボット手術は一般的になっていきます。日本では2009年に認可、3年後の2012年に前立腺がん手術の保険医療が認められ、2015年のロボット手術は1万3千件を超えています。新百合ヶ丘総合病院でもこの2年間で223件のロボット手術を実施しています。

9時から本院手術室前のホールで行われ、今年1年の無事故と安全を祈りました。手術室開きには渡邊一夫理事長や寺西寧同病院長（外科）、管桂一副院長（麻酔科）と渡辺善一郎副院長（外科）、窪睦子看護局長・部長、高野祥直外科副センター長のほか外科・麻酔科の医師や看護師、手術室スタッフが出席しました。

渡邊理事長や寺西院長ら幹部が祭壇に玉ぐしを捧げて無事故を願ったあと、渡邊理事長が「昨年は手術件数が8千件を超えました。今年も一人でも多くの患者さんを救うた

て対応することが安定した経営基盤を作り、利益も出て最新の機器購入や優秀な職員の採用につながり、必ずや良い方向に向かっていきます。

そこで今年の全病院・施設の共通目標として次の3点を掲げます（病院・診療所は4項目）。その目標は①16ゼロ作戦（15ゼロ）の推進。②診療報酬・介護報酬同時改定の具体的な対策と実行③Jアラートや大規模災害に対するマニュアル整備と訓練④手術室・診療所には、更に④カルテ記載の徹底（医師へのオリエンテーション実施とマニュアルの整備）⑤が加わります。

南東北グループが困難を断ち切り、更に上り詰めるにはどうしなければならぬでしょうか。社会保障費の予算が枯渇している状況で今後、施設や設備・人員を有効に活用するため、医療介護福祉の機関が合併・交流し、一極集中化していく国の政策に併せて、グループ内での更なる

に、使命感に燃え、奉仕の精神を尽くし、大きな目標に向かって昨年にも増して頑張っています。本年もどうぞよろしく願います。

（1面からつづき）

交流や経営の一体化を推進し、経営の安定化を図ることが不可欠です。具体的には①採用↓教育↓定期的人事異動を一連の流れとした人事管理体制の構築。人事部の設立②計画的なプロジェクト推進及びキャッシュフローの維持による経営の安定化③グループガバナンスの強化と新たな体制の構築。ホールディングカンパニーの検討④事務の合理化、IT化による業務改善の推進⑤診療材料、医薬品、委託契約の定期的な見直しと組織的にチェックできる体制の構築。LCOの更なる推進⑥増収対策本部の設置、診療報酬の増点のための体制強化⑦グループ広報の確立（効果的・効率的な広報戦略の策定）⑧です。

今年も南東北グループの理念である「すべては患者・利用者さんのために」をモットーに、使命感に燃え、奉仕の精神を尽くし、大きな目標に向かって昨年にも増して頑張っています。本年もどうぞよろしく願います。

件数は、南東北医療クリニック、南東北眼科クリニックを含め8427件で、これまで最多の前年（8164件）より263件多く、最多手術件数を更新しました。

同病院の29年1年間の手術

件数を更新しました。